

徳島県立近代美術館企画交流室長
森 芳功 の



美術の時間
エロティックな
対話

美術をたのしむ、美術館をたのしむ

その104 連携で見つかる可能性とクロスカリキュラム

真つ黒に日焼けした 美術の先生

近代美術館には、普段から美術に関わるさまざまな人が訪れ、会合も少なくありません。図工や美術の先生が鑑賞教材を検討する鑑賞教育推進プロジェクトの会合もその一つです。お忙しい先生方が、土曜日から日曜日に毎月ボランティアで集まってくれています。

メンバーのなかには遠方の学校にお勤めの先生もいますし、学校行事などもあって、全員がいつも顔を合わせられるわけではありません。ですが、途切れることなく今日まで一〇〇回以上続いています。それにしても、先生方のお話を聞いていると本当にお忙しそうです。毎日の授業だけでなく、年間を通して行事や研修、クラブ活動の指導などがあるからです。そのような先生が、たまに休めるかもしれない時間を割いて、美術館での会合に集まってくださるのは情熱なしにはできないように思えます。

図工や美術をめぐる状況がなかなか厳しいことも話題となります。お一人の先生から、こんな話を聞きました。―生徒数が減って学校の規模が小さくなっている

るので、ほとんどの中学校で美術の教員は一人だけしかおらず、学校で美術や美術の授業について話す機会がない。そのため、月一回の会合で意見交換ができるのは貴重な時間になる、というお話でした。専門の職員が何人かいる当館のような職場にいると、分かりにくい悩みなのでしょう。

先生が減っているのは、美術の授業時数の減少も関係しているようです。中学校の定められた授業時数では、一年を通して一週間に二時間の授業が確保できません。高校も選択で美術が受けられるのは一年生だけで、二、三年生で美術の授業があるのは、ごく一握りの学校だといえます。

美術の先生で、顔が真つ黒に日焼けして人がいるのはご存じでしょうか。それは運動部の顧問をしている先生が、生徒たちと練習に明け暮れているからなのです。生徒数が減って美術部がなくなり、部活動でも美術が指導できないことを示しています。他の教科の先生もそれぞれ悩みがあるのでしようが、図工、美術も厳しい状況があるのです。

しかしそのような日常から少しだけ離れて、美術鑑賞について考えたり、美術

の授業について情報交換をしたりすることで、美術館での会合が少しでもリフレッシュできる場になればと願っています。それに、学校は学校だけ、美術館は美術館だけで努力するのでなく、連携することで可能性が開けてくることも少なくありません。この鑑賞教育推進プロジェクトの先生方と美術館が内容を検討している鑑賞教材も、多くの学校で使われています。

昨年の春、水墨画に親しむ鑑賞シートをご紹介しますでしたが、その後「ベルギー近代美術の精華展」(二〇一六年一〇月―十二月)の開催に合わせて、「不思議の世界」鑑賞シートを発行しました。豆探偵が、さまざまな作品を見て、不思議の世界の秘密を解き、「報告ファイル」をつくる授業の流れです。いまは、色彩に注目する「色いろいろ」探求バトルシートを検討し、三月末の完成をめざしています。

作品に数学が隠れている

美術館の学校との連携事業で新しい取り組みもありました。「作品に潜む数学を探そう！」(一月九日)です。鳴門教育大学大学院の講義「数学と芸術、その

科学間との接点を探る」を受講する学生が講師となり、美術作品のなかに潜む数学について紹介する内容でした。^{*}

これまで鳴門市の大塚国際美術館で行ってきた催しですが、今年度は徳島県立近代美術館の所蔵作品展が会場となり、大人から小学生や幼稚園児まで参加する和やかな催しとなりました。

美術と数学の関わりといっても、イメージしにくい方が多いと思いますが、美術作品のなかには数学と関わりのあるものが少なくないのです。世界の名画の陶板を展示する大塚国際美術館では、ルネサンス期イタリアの画家ラファエロによる〈アテネの学堂〉(一六世紀初頭)が取り上げられました。古代ギリシャの哲学者、プラトン、アリストテレス、ソクラテスを中心に数多くの人物が描かれた作品です。画面左下には数学者ユークリッドがいて、何やら書き付けられた黒板も見えます。その黒板に注目し、「ピタゴラスの黒板の謎」として「三角数」を解説する授業を展開し、美術館ではそのエッセンスが紹介されました。

また、同じルネサンス期の画家、レオナルド・ダ・

ヴィンチの「最後の晩餐」(一五世紀末)や「モナリザ」(一六世紀初頭)に隠されている美しい比率、黄金比や白銀比などを見つけた授業も行われています。このように、絵画のイメージと共に数学を学ぶことができれば、導入としても楽しいですし、絵画に表されたものを見ながら具体的に考えることができますので、授業が親しみやすくなるように思います。

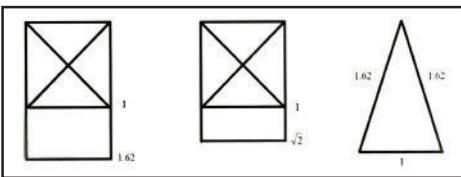
「数学メガネ」の楽しさ

確かにレオナルド・ダ・ヴィンチは、絵画だけでなくさまざまな科学分野に精通した「万能人」でしたので、数学を意識していたとしても不思議ではありません。では、徳島県立近代美術館にはどのような作品があるのでしょうか？

当館で行われた催しでは、



【図版】パウル・クレー〈子供と伯母〉1937年



左から黄金四角形、白銀四角形、黄金三角形

「最後の晩餐」にある黄金比、白銀比などを探してみました。「数学メガネ」と呼ばれる特製シートが配られるので、それを使って探そうです。透明なシートに線で黄金長方形や白銀長方形、黄金三角形などがプリントされたシートを通して見ると、作品に隠れている黄金比、白銀比が見えてきます。驚いたことに、ピカソの「赤い枕で眠る女」(一九三二年)でも見つけられました。「ピカソの作品なら子どもでも描ける」という意見を時々聞きますが、なかなか計算された絵づくりがされているようです。

次に見たクレー「子供と伯母」(一九三七年)でも、参加者が黄金比などを見つけ発表してくれました。この色彩の美しい作品には、二人の人物が線で描かれて

いるだけでなく、いろいろな形が表されています。それぞれの形の意味は分かりにくい面もあるのですが、黄金比、白銀比を組み合わせた、造形的美しさをつくるために置かれている可能性もあるのです。作品に奥深い工夫が込められていることを、「数学メガネ」を使うことで発見し、実感できるのかもしれない。

このような催しは、美術作品に隠された魅力に触れる切り口にもなります。ピカソやクレーの作品を見た後、「数学メガネ」を使って、他の作品を見る参加者の姿がありました。私もやってみたのですが、いろいろな作品に黄金比が見つかり、なかなか面白いのです。参加者のアンケートには、次のような感想がありました。「美術、数学とも苦手な分野ですが、たまたま参加してとても楽しかったです。これから美術作品をみる目が少し変わりそうです」(一般の方)、「ひとつだけでなく、いくつもの図形のバランスが隠されていることに驚いた」(大学生)、「いっぱい図形があつて、すごかった」(小学生)などです。講師となった学生さんが「いっしょけんめい話す姿、とてもほほえ

ましかったです。資料の準備もおつかれさまでした」という励ましの声もありました。

音楽と美術のクロスカリキュラム

美術と数学をつなぐ授業など、教科を横断して行う授業のことをクロスカリキュラムといいます。この後、二月には、音楽の先生、高木夏奈子さん(植草学園大学准教授)が、美術鑑賞の方法を音楽鑑賞に活かす音楽と美術のクロスカリキュラムを紹介してくれます。催しは二日に分かれていて、一日目は先生を対象とした授業研究会、二日目は、一般向けのワークショップとして開催します。数学と美術の催しのように、また新しい楽しみ方が見つかるかもしれません。ご参加いただけたいと思います。

*竹内利夫上席学芸員も「アート散策」(『徳島新聞』二〇一七年一月二三日)で紹介しています。
*齋藤大輔先生の論文「絵画の中にある数学的な視点から見る教材の開発」(『研究紀要』第九三集、徳島県立総合教育センター、二〇一四年三月)を参照しました。

2月の催し

- 所蔵作品展 徳島のコレクショント「特集1 伊原宇三郎に見る西洋絵画の理論と技法」19日「日」まで
- ・子ども鑑賞クラブ「理論の巻」4日「土」14時〜14時45分
- ・きんびセミナー「日本における西洋絵画理論の受容」5日「日」14時〜15時30分、会場：講座室(3階)、講師：江川佳秀(学芸調査課長)

■所蔵作品展 徳島のコレクショント「特集2 作家の中の作家」21日「火」から、「イメージの連続2」

- ・きんびセミナー「教員のための授業研究会―美術×音楽でひろがる表現活動」25日「土」15時30分〜18時、対象：教員、会場：アトリエ(3階)他、講師：高木夏奈子(植草学園大学准教授)、定員：20人、申込方法：電話等で(088・668・1088)、締切：16日「木」
- ・「美術×音楽で楽しむワークショップ」26日「日」10時〜12時、対象：どなたでも、会場：講師・定員：申込方法・締切は、25日のきんびセミナーと同じ
- ・テーマで知る名品「連続する版画のイメージ」26日「日」14時〜14時45分

□文化の森ウィントークフェスティバル「アートのくろぎ広場」美術館で遊ぼう、「ユニバーサルミュージアムを体験しよう！」他9時30分〜16時

- ・ミニ解説「伊原宇三郎の理論と技法」11時〜14時(各回15分)
- ・ミニ解説「連続する版画のイメージ」10時〜15時(各回15分)